

専門研修プログラム名	東海大学医学部精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	東海大学医学部付属病院	
プログラム統括責任者	山本 賢司	

<p>専門研修プログラムの概要</p>	<p>東海大学医学部付属病院精神科では医学部開設当初から力動的精神医学・児童精神医学を柱として、診療・教育・研究を行ってきた。現在はそれらに加え、コンサルテーション・リエゾン精神医学や救命救急精神医学、緩和ケアやサイコオンコロジーなどにも力を入れている。原則的に最初の1年間は基幹施設である大学病院で研修を行い、2、3年目に連携施設である精神科病院10病院で6か月から1年の単位で研修を行う。医学部付属病院での研修は外来（成人、児童）と一般病棟、救命救急センターでのリエゾン、緩和ケアチームでの活動を中心に、面接法や精神療法、薬物療法の基本を学ぶ。1年を通して定期的に行われている専攻医向けの講義や症例検討会のほかにも、成人臨床精神医学研究会や児童精神科医学研究会、リサーチミーティングなどで研究・学会発表の指導を受ける。連携施設に出向した際も医学部付属病院での外来業務を週に1回担当し、指導医からの成人、児童症例の指導やスーパービジョンを受ける。連携施設である精神科病院10病院（愛光病院、けやきの森病院、国府津病院、相州病院、曾我病院、丹沢病院、秦野病院、秦野厚生病院、平塚病院、富士見台病院）のほとんどは急性期治療病棟、療養病棟を有しており、どこの病院でも研修期間内で経験すべき症例数は確保できる体制を構築している。病院によってはスーパー救急病棟や児童思春期病棟、認知症病棟を有しているために、専攻医の希望も加味しながら多様な症例を経験できる。アルコール・薬物依存症については、急性中毒や離脱状態は大学病院で数多くの症例を経験でき、依存症候群や精神病性障害は連携施設で数多く経験できる。また、地域医療に関しても各病院で患者を通して地域と関わるとともに、神奈川県立精神保健福祉センターでの研修も行い、様々な立場での地域医療を体験できるプログラムとなっている。</p>
<p>専門研修はどのようにおこなわれるのか</p>	<p>東海大学医学部付属病院、湘南東部に位置する精神科病院10病院と神奈川県精神保健福祉センターの合計12施設で構成されている。1年目は基本的に研修基幹病院である東海大学医学部付属病院で、2、3年目は研修基幹施設である東海大学医学部付属病院、もしくは研修連携施設の精神科病院10病院（愛光病院、けやきの森病院、国府津病院、相州病院、曾我病院、丹沢病院、秦野病院、秦野厚生病院、平塚病院、富士見台病院）を6か月または1年毎にローテートして研修を行う（専攻医の希望により調整は可能である。）また、神奈川県精神保健福祉センターでは2年目以降に臨床業務と並行して研修を行う（年間3日間）。</p>

	<p>修得すべき知識・技能・態度など</p>	<p>3年間を通して、専門研修プログラム整備基準に示されている精神科領域専門研修後の成果を上げるために必要な知識・技能・態度を修得する。1年目は主に基幹施設で、指導医とともに様々な精神疾患の患者を受け持ち、患者や家族への面接の仕方、精神科診断と治療計画、精神科的治療（薬物療法、精神療法、精神科リハビリテーション）の基本を学ぶ。また、自分の受け持った症例について、院内の症例検討会やカンファレンスなどで発表を行う。知識や理論的な面については、年間を通して大学病院で行われている専攻医向けの講義で学習する。2年目は指導医の指導を受けながら、患者や家族との面接技能を高め、精神科診断と治療計画、薬物療法の能力を充実させる。精神療法に関しては認知行動療法や力動的な精神療法、集団精神療法の基礎理論と技法を学ぶ。また、精神科救急は各精神科病院の指導医の下で直接従事して対応方法を学ぶ。原則的に大学病院での外来業務を週に1回担当し、臨床や研究について指導医からの指導を受ける。3年目は指導医から自立して診療ができるようにする。診断と治療計画、薬物療法をさらに充実させ、精神療法についてもスーパーバイザーの元で実施する。精神科リハビリテーション、地域精神医療などを学び、チーム医療や医療チームでのリーダーシップについても学習する。</p>
<p>専攻医の到達目標</p>	<p>各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得</p>	<p>院内では、同職種だけではなく、他職種のカンファレンスが頻繁に行われており、また、地域の医療機関や介護施設、行政を含めたカンファレンスも症例に応じて開催されている。各種カンファレンスでは、患者や家族だけではなく多くの職種とコミュニケーションを取ることができ、根拠にもとづく診断・治療を行う知識を有し、適正でわかりやすい説明が出来る知識や技能を修得する。</p>
	<p>学問的姿勢</p>	<p>東海大学医学部精神科専門研修プログラムでは、東海大学が総合大学であるため、医学部内はもちろん、健康科学部や文学部、教養学部との交流もあり、勉強会や共同研究（基礎研究、臨床研究）が数多く行われている。専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて、興味深い症例については院内の症例検討会で発表することを基本とし、専攻医の興味に応じて基礎研究や臨床研究に参加することも可能である。その中で特に興味深い症例報告や研究については、日本精神神経学会ないしは所定の関連学会での発表や学内誌などへの投稿を行う。</p>
	<p>医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性</p>	<p>研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接や精神療法、精神科薬物療法、リエゾン・コンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。</p>
	<p>年次毎の研修計画</p>	<p>1年目は基本的に研修基幹病院である東海大学医学部付属病院で、2、3年目は研修基幹施設である東海大学医学部付属病院、もしくは研修連携施設の精神科病院10病院をローテートして研修を行う。</p>

施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	研修施設群と研修プログラム	精神科病院10病院は神奈川県西、県中部に位置し、基幹施設である東海大学医学部附属病院との診療面での連携を密にしている病院である。研修プログラムはそれぞれの病院の特徴を活かして組まれている。
	地域医療について	研修の全期間中、症例を通して地域医療と実際に関わり、連携を図る。また、2,3年目は神奈川県精神保健福祉センターでの研修へ参加し、行政の立場からの地域医療を体験する。
専門研修の評価	研修指導医と専攻医は定期的な研修状況を確認する中で、研修環境や研修達成状況の意見交換を行う。また、プログラム統括責任者は専攻医と1年ごとに面談を行い、研修指導医や研修プログラムの評価を得る。	
修了判定	最終年度の研修を終えた時点で、研修期間中の研修項目の達成度と経験症例数を評価し、それまでの研修指導医、多職種からの形成的評価を参考として、専門的知識、専門的技術、医師としての備えるべき態度を習得しているかどうか、並びに医師としての適性があるかどうかをプログラム管理委員会の審議を経て判定する。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラムの管理委員会の業務	プログラム管理委員会は、研修プログラムの作成、プログラム施行上の問題点の検討や再評価を継続的に行う。また、各専攻医の統括的な管理（専攻医の採用や中断、研修計画や研修信仰の管理、研修環境の整備など）や評価を行う。
	専攻医の就業環境	各施設の労務管理基準に拠る。本プログラムでは、特に女性医師や家族等で介護を行う必要のある医師に十分な配慮を心掛けている。専攻医の勤務時間、休日や当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従う。さらに、当直業務と夜間診療業務の区別とそれぞれに対応した適切な対価を支払うこと、学会・研究会出張への配慮などのバックアップ体制、適切な休暇（年次有給休暇や夏期休暇など休養についての配慮）、社会保険（健康保険、厚生年金、雇用保険等）などについて、雇用契約を結ぶ時点で説明を行う。
	専門研修プログラムの改善	基幹施設の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて、定期的プログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。
	専攻医の採用と修了	精神科領域専門医制度では専攻医であるための要件として、①日本国の医師免許を有すること、②初期研修を終了していることを挙げている。この条件を満たす者については、東海大学医学部附属病院の臨床助手（1種・2種）採用試験で専攻医として受け入れるかどうかを審議する。修了は本プログラムで3年以上研修を行い、研修の結果どのようなことができるようになったかについて専攻医と研修指導医が評価する研修項目表による評価、多職種による評価、経験症例数リストの提出し、研修プログラム統括責任者により受験資格が認められたことをもって修了したものとする。

	<p>研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件</p>	<p>特定の理由のために専門研修が困難な場合は、申請により、専門研修を中断することができる。6か月までの中断であれば、残りの期間に必要な症例などを埋め合わせることで研修期間の延長は要しない。また、6か月以上の中断の後、研修に復帰した場合でも、中断前の研修実績は引き続き有効とする。他のプログラムへ移動しなくてはならない特別な事情が生じた場合には精神科専門医制度委員会に申し出る。同委員会で事情が承認された場合は、他のプログラムへの移動が出来る。その際も移動前の研修実績は引き続き有効とする。</p>
	<p>研修に対するサイトビジット (訪問調査)</p>	<p>日本精神神経学会によるサイトビジットを受け、研修プログラムに合致しているか、専門研修プログラム申請書の内容に合致しているかの審査を受ける。</p>
<p>専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、 役職を記述してください。</p>	<p>東海大学医学部付属病院精神科：山本賢司（教授）、三上克央（教授）、大西雄一（講師）、木本啓太郎（講師）、東海大学医学部付属病院緩和医療：高橋有記（講師）</p>	
<p>Subspecialty領域との連続性</p>	<p>東海大学医学部付属病院は精神科専門医以外にも、一般社団法人子どものこころ専門医機構による子どものこころ専門医、日本総合病院精神医学会による一般病院連携精神医学専門医を取得するための施設認定を受けている。</p>	